

調査報告

米沢出身の写真家と米沢の風景の移り変わり

The Life of a Nameless Local Photographer and
the Changing Landscape of Town in Yonezawa

西川 友子

NISHIKAWA Tomoko

令和元年度教養ゼミ生

阿部 華子 千田 明日美

ABE Kako

CHIDA Asumi

山形県立米沢女子短期大学

『生活文化研究所報告』

第47号 抜刷

2020年3月

米沢出身の写真家と米沢の風景の移り変わり

The Life of a Nameless Local Photographer and the Changing Landscape of Town in Yonezawa

西川 友子

NISHIKAWA Tomoko

令和元年度教養ゼミ生

阿部 華子 千田 明日美

ABE Kako

CHIDA Asumi

要 旨

本稿は、米沢市出身の無名の写真家・小貫幸太郎氏に焦点を当てる。世にあまり知られていない小貫幸太郎氏の経歴について調査し、その調査結果を纏めるものである。さらに、小貫幸太郎氏の作品6点を紹介しながら、作品6点の撮影ポイントにおける現在の風景を撮影し、撮影ポイントの変遷を確認した。また、撮影ポイントに関連する事柄についても纏めている。なお、本稿により、米沢市出身の写真家・小貫幸太郎氏の存在と氏の作品が世に広まることの一助になると考える。

キーワード：米沢、米沢出身の写真家

1 はじめに

2018年12月に米沢商工会議所発行の2019年カレンダー「calendar2019 なつかしい米沢の風景－小貫幸太郎氏の写真より－」を手を取った。カレンダーをめくると、昔の米沢の街の風景の写真6点がカレンダーの中に収められていた。カレンダーに掲載されていた昔の米沢の街の風景の写真はセピア色に画像処理加工がなされていたため、よりノスタルジックな風景が広がっていた。昔の米沢の街の風景の写真とともに、現在の様子と思われる写真も掲載されていた。現在の米沢の様子と昔の米沢の様子とのコントラストに非常に興味が湧いた。

カレンダーのタイトルから昔の米沢の街の風景の写真6点を撮影したのは小貫幸太郎氏であることが分かった。しかしこの時点では、小貫幸太郎氏がどのような人物であるかなどの詳細が不明であった。だが、カレンダーのタイトルのおり、米沢に縁のある人であろうことは推測できた。機会があれば、小貫幸太郎氏について調査したいと考えていた。

2019年4月に山形県立米沢女子短期大学令和元年度前期開講1年次教養科目「教養ゼミ」のゼミ配属生が決定し、2名の学生が配属となった。2名のゼミ生に対して、米沢商工会議所発行の2019年カレンダーを見せながら、教養ゼミで実施したいと考えているテーマと内容について話をした。

具体的な内容は、次のとおりである。

- カレンダーに掲載されている昔の米沢の街の風景の写真の撮影者である小貫幸太郎氏がどのような人物であるかが不明であるため、小貫幸太郎氏の経歴について調べる
- 地図やカレンダーに掲載されている写真から推測できる情報を頼りにして、カレンダーに掲載されている小貫幸太郎氏の写真の撮影ポイントと考えられる場所を探し出す
- 小貫幸太郎氏の写真の撮影ポイントと考えられる場所を実際に訪れ、その場所を撮影する
- 小貫幸太郎氏の写真の撮影ポイントに関連する事柄（地名や建物など）を文献にあたって調べる

2人のゼミ生はともに山形県外の出身者であったため、今回のゼミのテーマに興味を持ってくれた。そこで、令和元年度の教養ゼミでは上記の内容を実施することにした。

なお、4点目に挙げた「小貫幸太郎氏の写真の撮影ポイントに関連する事柄（地名や建物など）を文献にあたって調べる」点については、時間的な制約から前期の教養ゼミの時間だけでは調査が不足すると考えられたため、筆者の一人である西川が前期終了後も継続して調査を行った。

本稿では、上述のように、米沢市出身の無名の写真家・小貫幸太郎氏に焦点を当て、氏の経歴の調査し、その結果を報告する。また、小貫幸太郎氏の作品6点を紹介しながら、作品6点の撮影ポイントにおける変遷を確認する。さらに、作品6点の撮影ポイントに関連する事柄を調査した結果を纏めている。

なお、作品6点の撮影ポイントにおける現在の風景を撮影した画像ではゼミ生の姿が写っているが、撮影に関しては本人達の了承を得たうえで撮影を行っている。

2 写真家・小貫幸太郎氏

先にも述べたが、教養ゼミ活動開始時点においても、小貫幸太郎氏の人物像が不明であった。そのため、小貫幸太郎氏の経歴について調査することから、ゼミ活動を開始した。

最初に、山形県公立大学法人附属図書館の蔵書検索システムを使用して、キーワード「小貫幸太郎」でキーワード検索を行った。残念ながら、検索結果は0件であった。そこで、附属図書館司書に「現在、『小貫幸太郎』氏という人物について調べている。小貫幸太郎氏についての記述がある図書や資料を探してほしい。」と依頼した。附属図書館に依頼して1週間程度経過した頃、依頼の結果が届いた。結果は「小貫幸太郎氏の名前の記述がある図書2冊が附属図書館に所蔵されている。」というものであった。

附属図書館に所蔵されていた2冊の図書は「104 ふるさとの思い出 写真集 明治 大正 昭和 米沢」（渡部、1986）、「徴兵体験 百人百話」（阪野、2015）であった。

「104 ふるさとの思い出 写真集 明治 大正 昭和 米沢」では、「あとがき」のページの中に小貫幸太郎氏の名前が記載されていた（渡部、1986、p. 123）。この写真集では200枚以上の写真が用いられている（渡部、1986、p. 123）が、これらのうちの一部の写真が小貫幸太郎氏の作品だと考えられる。残念ながら、どの写真が小貫幸太郎氏の作品であるのかは不明であった。

「徴兵体験 百人百話」は米澤新聞で平成14（2002）年12月から平成15（2003）年9月まで連載された「戦争聞き歩き 百人百話」を原稿段階から精査、再編集したものである（阪野、2015、p. 3）。この書籍には110名の徴兵経験者の語りが掲載されており、小貫幸太郎氏の経験談も含まれていた（阪野、2015、pp. 32-33）。小貫幸太郎氏の経験談のページには、小貫幸太郎氏の上半身の写真とともに生年月日も記されており、小貫幸太郎氏の生年月日は大正3（1914）年12月15日であることが判明した（阪野、2015、pp. 32-33）。

先述のとおり、「徴兵体験 百人百話」は米澤新聞に掲載された「戦争聞き歩き 百人百話」が元になっている。幸い、山形県公立大学法人附属図書館には過去の米澤新聞が所蔵されている。そのため、平成14（2002）年12月から平成15（2003）年9月までの米澤新聞を調査し、小貫幸太郎氏の経験談の記事が掲載されている米澤新聞を探し出した。小貫幸太郎氏の経験談の記事は平成15（2003）年1月21日（火曜日）の第3面に掲載されていた。この新聞記事掲載当時の小貫幸太郎氏の年齢は88歳であった（米澤新聞社、2003）。

前期の教養ゼミが終了した後も文献調査を進めていくうちに、小貫幸太郎氏の名前が「市制100周年記念誌米沢百年」に「写真・資料提供者」として掲載されていることが判明した（米沢市制100周年記念事業実行委員会編、1989、p. 211）。また「米沢百科事典」にも「写真提供者」として、小貫幸太郎氏の名前の掲載が確認された（サンユー企画米沢百科事典発行委員会編集、1982、p. 934）。さらに「写真集 やまがた100年」にも「写真提供者ならびに協力者」として、小貫幸太郎氏の名前が掲載されていることが判明した（山形新聞社「写真集・やまがた100年」刊行委員会編、1988、p. 447）。

文献調査と平行して、インターネット上に小貫幸太郎氏の経歴などに関する情報が存在するかどうかを

Googleサイトでキーワード検索を行って調査した。小貫幸太郎氏に関する具体的な情報が掲載されていると思われる検索結果は3件が該当した。

1件目は、株式会社ニューメディア米沢センター（NCV米沢）が開設しているYouTubeチャンネル内の動画『テクテクまっぶ「写真と共に歩む人生」小貫幸太郎（2003年1月放送）』である（株式会社ニューメディア米沢センター，2018）。この動画の概要欄に小貫幸太郎氏が2008年に93歳で逝去されたことが記載されていた。この動画で小貫幸太郎氏の姿や肉声を見聞きすることができる。

2件目は、米沢興譲館同窓会公式サイト同窓会ニュースで掲載されていた記事である。この記事内では、“同市の写真家小貫幸太郎さん（1914～2008年）”と記載されていた（米沢興譲館同窓会，2017）。なお、この記事のタイトルには“ペーパークラフトと写真で感じる「昭和」・米沢・中村隆行さん（S50卒）（2017年5月26日山形新聞より）”と記述されていたため、2017年5月26日発行の山形新聞を確認したところ、第16面に当該記事が掲載されていた（山形新聞社，2017）。

そして3件目は、公益財団法人米沢上杉文化振興財団が掲載していた「写真とペーパークラフトで感じる昭和の息吹」というチラシである（公益財団法人米沢上杉文化振興財団，2017）。このチラシには小貫幸太郎氏の簡単な略歴が掲載されていた。

公益財団法人米沢上杉文化振興財団が掲載していたチラシにより、小貫幸太郎氏の簡単な略歴を知ることができた。しかし、これ以上の具体的な情報を得られる方法はないかと思案したところ、本学日本史学科出身の附属図書館司書から、公益財団法人米沢上杉文化振興財団学芸主査である阿部哲人氏が非常勤講師として本学で教鞭を取られていることを聞いた。附属図書館司書から話を聞いた時点では阿部学芸主査との面識が全くなかったため、附属図書館司書に依頼を行い、附属図書館司書より阿部学芸主査に対して、公益財団法人米沢上杉文化振興財団がインターネット上に掲載しているチラシに記載されている小貫幸太郎氏の経歴について、より具体的な経歴についての話を聞きたい旨をご連絡して頂いた。その後、阿部学芸主査と直接お会いすることができ、今回の調査の経緯などをお話ししたところ、阿部学芸主査より取材に関してご快諾を頂いた。そして、公益財団法人米沢上杉文化振興財団に対して正式に取材依頼を行い、取材の許可を得ることができた。取材は2019年6月19日（水）に行くこととなった。

2019年6月19日（水）に米沢市上杉博物館を訪問し、阿部学芸主査より小貫幸太郎氏に関しての具体的なお話を伺うことができた。公益財団法人米沢上杉文化振興財団では、小貫幸太郎氏からのフィルムや写真などの寄贈にともない、小貫幸太郎氏ご本人から直接さまざまな情報の聞き取り調査を行ったとのことである。また、寄贈された作品などの目録も作成したとのことである。

取材や文献調査などを通じて得られた小貫幸太郎氏に関する情報を纏めると、次のとおりである。

小貫幸太郎（おぬきこうたろう）氏

- 大正3（1914）年12月15日米沢市柳町生まれ
- 平成20（2008）年8月12日に死去（享年93）
- 尋常小学校卒業後、10代で東京の反物卸問屋へ奉公に行く
- 奉公時に、カメラで撮影することを覚え、カメラを趣味とした
- 18歳のころ米沢に戻る（※昭和7（1932）年頃か）
- 昭和33（1958）年に重要文化財の「上杉本洛中洛外図屏風」の撮影依頼を受けた以降、プロの写真家として活動する
- 米沢の風景、祭り、祭礼、民俗行事、文化財などを撮影する
- 米沢市内の立町周辺を中心に撮影していた
- 山形県や米沢に関する多数の書籍・写真集に小貫幸太郎氏の写真が掲載されている
- 生前、米沢市上杉博物館にフィルムや写真など4,805点寄贈した
- 寄贈されたネガフィルムや写真などは、特に昭和時代の作品が多く、米沢の街の変化が分かる大事な資料として保管されている

3 小貫幸太郎氏の作品から観る米沢の風景の移り変わり

この節では小貫幸太郎氏の写真作品6点を紹介する。それとともに、作品6点内の背景（例えば山並み）や米沢商工会議所発行カレンダーに掲載されていた現在の様子と思われる写真から推測できる情報及び地図を頼りにしながら、6点の写真の撮影ポイントと考えられる場所を探し出した。撮影ポイントと考えられる場所を実際に訪れて撮影した写真を掲載する。あわせて、文献調査で得られた写真の撮影ポイントに関連した情報も記す。

なお、6点の写真の撮影ポイントと考えられる場所をGISソフトウェアQGIS Desktop 3.4.9を使用して地図化した（QGISプロジェクト, 2019）。その際、基本地図として国土交通省国土地理院が整備している基盤地図情報を用いている（国土交通省国土地理院, 2019）。境界データとして、総務省統計局で公開されている2015年国勢調査（小地域）の境界データを利用した（総務省統計局, 2019）。また、国土交通省国土政策局国土情報課が提供している国土数値情報ダウンロードサービスの中から平成18年度に作成された公共施設データをダウンロードして使用している（国土交通省国土政策局国土情報課, 2014）。

3.1 桂町通り

図1に小貫幸太郎氏が撮影した昭和30年代の桂町通りの風景の写真を示す。また、図1の撮影ポイントと考えられる場所を図2に示す。そして、図3に撮影ポイントと考えられる場所から撮影した現在の桂町通りの風景の写真を示す。

図1と図3を比較すると、桂町通り沿いにある建物の多くが建て替えられており、風景に大きな変化がみられる。橋も架け替えられている。なお、図1から、米沢は豪雪地帯であることが一目瞭然である。



図1 小貫幸太郎氏が撮影した「桂町通り（昭和30年代）」の風景、所蔵者：米沢市（上杉博物館）



図2 小貫幸太郎氏が撮影した「桂町通り（昭和30年代）」の写真の撮影ポイントと考えられる場所。この図は国土地理院の基盤地図情報に独自データ等を追加して作成したものである。



図3 「桂町通り」と考えられる県道233号線の現在の様子、撮影日：2019年5月29日、撮影者：西川友子

「桂町通り」という通りの名前に含まれている桂町は江戸期からの町名で、米沢城下の西部に位置し、米沢城下のうちで侍町の1つだった（「角川日本地名大辞典」編纂委員会編，1981，p. 222）。

桂町は明治22（1889）年4月1日から昭和41（1966）年7月31日までは米沢市の町名であった（米沢市史編さん委員会編，1995，p. 262，1996，p. 587，1999，p. 254 および p.354；「角川日本地名大辞典」編纂委員会編，1981，p. 222）。なお、昭和7（1932）年に仲間町・七ツ蔵・土手ノ内町の各一部を桂町に編入している（「角川日本地名大辞典」編纂委員会編，1981，p. 222）。

桂町は昭和41（1966）年8月1日に米沢市の住居表示を実施して街区制となった際、現在の米沢市松が岬2丁目、松が岬3丁目、丸の内1丁目の一部となった（サンユー企画米沢百科事典発行委員会編集，1982，p. 107；米沢市史編さん委員会編，1996，p. 587，1999，p. 354；「角川日本地名大辞典」編纂委員会編，1981，p. 222）。

桂町の町名の由来は「樹齢700年以上の桂の木があったから」（サンユー企画米沢百科事典発行委員会編集，1982，p. 107；米沢商工会議所，米沢市企画調整部まちづくり推進課・産業部商工観光課，社団法人米沢観光物産協会，2006，p. 72；「角川日本地名大辞典」編纂委員会編，1981，p. 222）という説がある。

「桂町通り」という通りの名前については、地図検索サイト「マピオン」において、米沢市松が岬3丁目の県道233号線上に「桂町通り」の名称情報が確認できた（株式会社ONE COMPATH，2019）。このことから「桂町通り」は現在の県道233号線の一部であったと考えられる。

3.2 市立米沢図書館（2代目）

図4に小貫幸太郎氏が撮影した昭和45（1970）年当時の2代目の市立米沢図書館の写真を示す。また、図4の撮影ポイントと考えられる場所を図5に示す。そして、図6に撮影ポイントと考えられる場所から撮影した市立米沢図書館（2代目）の所在跡地の現在の写真を示す。

図4と図6を比較すると、お堀の傍にある桜の木には変化がない。図4にある2代目の市立米沢図書館は取り壊されていて、別の建物が建築されている。

市立米沢図書館は、明治42（1909）年10月7日に御守町（現在の米沢市西大通1丁目）法泉寺境内に創立された財団法人米沢図書館が前身である（サンユー企画米沢百科事典発行委員会編集，1982，p. 325；市立米沢図書館，2017，p. 1；米沢市制百周年記念事業実行委員会編，1989，p. 38；米沢市史編さん委員会編，1995，p. 428，1996，p. 845，1999，p. 270；米沢市史編纂委員会編，1968，p. 535）。

昭和13（1938）年4月1日に財団法人米沢図書館ならびに郷土館が米沢市に移管され、市立米沢図書館となった（サンユー企画米沢百科事典発行委員会編集，1982，p. 325；市立米沢図書館，2017，p. 1；米沢市制百周年記念事業実行委員会編，1989，p. 111；米沢市史編さん委員会編，1996，p. 259 および p.845，1999，p. 306；米沢市史編纂委員会編，1968，p. 535）。

昭和28（1953）年に米沢城址に近い南堀端町（現在の米沢市丸の内1丁目）に市立米沢図書館の新館を建設し、御守町から移転後、昭和29（1954）年7月14日に新館の図書館が開館した（サンユー企画米沢百科事典発行委員会編集，1982，p. 325；市立米沢図書館，2017，p. 2；米沢市制百周年記念事業実行委員会編，1989，p. 148；米沢市史編さん委員会編，1996，p. 847，1999，p. 336；米沢市史編纂委員会編，1968，p. 535）。つまり、南堀端町に建てられた図書館が2代目の市立米沢図書館となる。なお、この図書館は米沢郷土館を併設した（市立米沢図書館，2017，p. 2；米沢市制百周年記念事業実行委員会編，1989，p. 149；米沢市史編纂委員会編，1968，p. 535）。

その後、米沢市金池3丁目に置賜総合文化センターが建てられ、昭和50（1975）年7月15日にこの1階部分に米沢市立図書館が移転し開館した（サンユー企画米沢百科事典発行委員会編集，1982，p. 325；市立米沢図書館，2017，p. 4；米沢市制百周年記念事業実行委員会編，1989，p. 188；米沢市史編さん委員会編，1996，p. 839，1999，pp. 368-369）。

そして平成28（2016）年7月1日、米沢市中央1丁目に新しく建設された市立米沢図書館が開館し、現

在に至っている（市立米沢図書館，2017，p.5；米澤新聞社，2016a）。

図4にある市立米沢図書館は昭和29（1954）年に建てられた2代目の図書館である。図4のとおり、建物の外観は白一色ギリシャ風の建築で、コリント様式の柱が並んでいた（市立米沢図書館，2017，p.2；米沢市史編さん委員会編，1996，p.846）。なお、正門玄関上部の女神像を中心としたレリーフは米沢市出身の彫刻家桜井祐一氏（1914～1981）の作である（独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所，2014；米沢市制百周年記念事業実行委員会編，1989，p.149；米沢市史編さん委員会編，1996，pp.846-847；米沢市史編纂委員会編，1968，pp.535-536）。



図4 小貫幸太郎氏が撮影した「市立米沢図書館（2代目）（昭和45（1970）年）」の様子、所蔵者：米沢市（上杉博物館）



図5 小貫幸太郎氏が撮影した「市立米沢図書館（2代目）」の風景写真の撮影ポイントと考えられる場所。この図は国土地理院の基盤地図情報に独自データ等を追加して作成したものである。



図6 「市立米沢図書館（2代目）」の所在跡地の現在の様子、撮影日：2019年7月10日、撮影者：西川友子

置賜総合文化センターに市立米沢図書館が移転した後、ギリシャ風建築の2代目市立米沢図書館は昭和57（1982）年まで分館「こども図書館」として利用され、同年取り壊された（山形新聞社「写真集・やまがた100年」刊行委員会編，1988，p. 94；米沢市史編さん委員会編，1996，p. 850）。なお、正門玄関上部のレリーフは保存され、平成6（1994）年に改築された米沢市立第一中学校の校舎に組み込まれた（米沢市史編さん委員会編，1996，p. 850）。

3.3 松が岬公園

図7に小貫幸太郎氏が撮影した昭和30年代の松が岬公園の写真を示す。また、図7の撮影ポイントと考えられる場所を図8に示す。そして、図9に撮影ポイントと考えられる場所から撮影した現在の松が岬公園の風景を示す。

図7と図9を比較すると、構造物である松が岬公園の四方にあるお堀には変化がない。



図7 小貫幸太郎氏が撮影した「松が岬公園（昭和30年代）」の風景、所蔵者：米沢市（上杉博物館）

松が岬公園は米沢市丸の内1丁目に位置しており、松岬城といわれた本丸跡に公園がある。松が岬公園は四方を堀と桜の木に囲まれており、現在では、桜の名所となっている（サンユー企画米沢百科事典発行委員会編集，1982，p. 400；山形県，2019；米沢商工会議所 他.，2006，p. 25）。

歴仁元（1238）年に長井時広がこの地に松岬城を建てたと伝えられており（米沢市史編さん委員会編，1999，p. 21）、長井氏以来、伊達氏・蒲生氏・直江氏・上杉氏が居城していた（サンユー企画米沢百科事典発行委員会編集，1982，p. 400；米沢商工会議所 他.，2006，p. 25）。明治6（1873）年に城が取り壊され、明治7（1874）年、市民に公園として開放された（サンユー企画米沢百科事典発行委員会編集，1982，p. 400；米沢商工会議所 他.，2006，p. 25）。

昭和27（1952）年、米沢市の都市計画から公園として整備され、昭和32（1957）年に都市公園の設置を受けた（サンユ-企画米沢百科事典発行委員会編集，1982，p. 400）。そして、昭和42（1967）年9月1日、松が岬公園内に米沢市上杉博物館が開館した（米沢市制百周年記念事業実行委員会編，1989，p. 172；米沢市史編さん委員会編，1996，p. 851，1999，p. 355）。また、昭和49（1974）年9月28日に、米沢ライオンズクラブが、松が岬公園内に上杉謙信公之像を建立した（米沢市制百周年記念事業実行委員会編，1989，p. 186；米沢市史編さん委員会編，1999，p. 367）。

松が岬公園内には、上杉神社をはじめ、上杉神社宝物殿（稽照殿）、臨泉閣、福德稲荷神社、春日神社、招魂碑、上杉謙信祠堂址、従三位上杉鷹山公の碑などがある。堀の東側に松岬神社、堀の南側に旧上杉伯爵邸が所在している（サンユ-企画米沢百科事典発行委員会編集，1982，p. 400）。

なお、松が岬公園内に所在していた米沢市上杉博物館は現在移転している。堀の南東側に、「米沢市上杉博物館」と山形県立の「置賜文化ホール」が合築された「伝国の杜」が建設され、伝国の杜は平成13（2001）年9月29日に開館した（米沢商工会議所 他，2006，p. 6；米澤新聞社，2001a，2001b，2001c）。

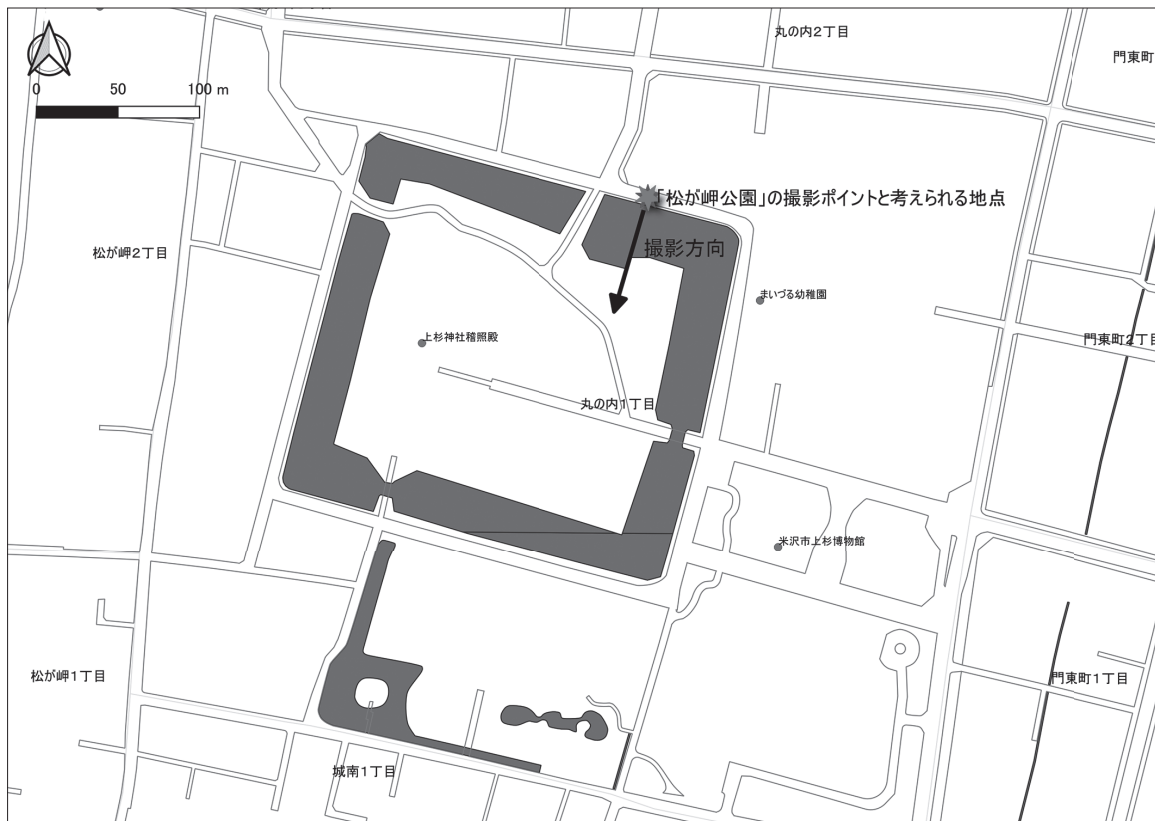


図8 小貫幸太郎氏が撮影した「松が岬公園（昭和30年代）」の風景写真の撮影ポイントと考えられる場所。この図は国土地理院の基盤地図情報に独自データ等を追加して作成したものである。



図9 現在の「松が岬公園」の風景、撮影日：2019年7月10日、撮影者：西川友子

3.4 中央広場

図10に小貫幸太郎氏が撮影した昭和48（1973）年の中央広場の写真を示す。また、図10の撮影ポイントと考えられる場所を図11に示す。そして、図12に撮影ポイントと考えられる場所から撮影した中央広場跡地の現在の風景を示す。

図10と図12を比較すると、風景に大きな変化がみられる。現在では中央広場は存在しておらず、かつての中央広場は道路となっている。また、中央広場沿いにある建物の多くが建て替えられている。

中央広場は、旧米沢市役所（庁舎は大正10（1921）年11月19日に落成し、大正10（1921）年11月24日から昭和45（1970）年10月11日まで開庁していた。）（米沢市史編さん委員会編，1995，p. 505，1996，p. 454，1999，p. 284 および p.361）や、米沢公会堂（現在の米沢市市民文化会館）、物産陳列所が周囲に所在していた場所にあった（山形新聞社「写真集・やまがた100年」刊行委員会編，1988，p. 13）。

中央広場を中心にして米沢市中央1丁目に昭和40年代中盤以降、米沢初のデパート大沼米沢店（昭和45（1970）年10月31日開店）や、中央広場を挟んで平和通りに面する米沢ショッピングセンター（昭和46（1971）年10月22日開店）と地元資本の米沢ファミリーデパート（昭和47（1972）年11月2日開店）の3つの大型店舗があり、中央広場周辺は米沢市内で一番の繁華街であった（米沢市制百周年記念事業実行委員会編，1989，p. 178 および p.181，p.182；米沢市史編さん委員会編，1996，pp. 489-490，p.636，1999，pp. 361-362，p.364）。



図10 小貫幸太郎氏が撮影した「中央広場（昭和48（1973）年）」の風景、所蔵者：米沢市（上杉博物館）

なお、米沢ショッピングセンターは平成3（1991）年春に閉店し、翌年の平成4（1992）年に「米沢ポポロ」〈通称・ポポロ館〉として再開店した（米沢市史編さん委員会編，1996，p. 640，1999，p. 387）。そして、米沢ポポロ内のテナント退去後、米沢ポポロは平成30（2018）年4月5日から11月中旬までの工期の予定で解体作業が実施された（米澤新聞社，2018）。米沢ポポロ跡地は令和元（2019）年12月現在、更地になっている。

また、米沢ファミリーデパートは後にニチイ系のサンホーユーとして営業を続けたが、平成6（1994）年3月1日に閉店した（米沢市史編さん委員会編，1996，p. 640，1999，p. 389）。閉店後のサンホーユーの建物は平成8（1996）年5月7日から数か月かけて解体され、解体後は米沢市に引き渡された（米澤新聞社，1996a，1996b，1996g，1996i，1996j，1996l，1996m，1996p，1996q，1996r，1996s，1996t）。

その後、サンホーユー（旧米沢ファミリーデパート）の跡地では、平成25年（2013）年10月4日に「新文化複合施設」の建設が着工した（米澤新聞社，2013）。「新文化複合施設」の愛称が公募により募集され、平成28（2016）年5月31日に「新文化複合施設」の愛称は「ナセBA」と決定したことが公表された（市

立米沢図書館, 2016; 米澤新聞社, 2016b)。新文化複合施設「ナセBA」は市立米沢図書館と市民ギャラリーの機能を備えた施設となっており、平成28(2016)年7月1日に開館した(米澤新聞社, 2016a)。

そして、大沼米沢店は49年間営業を続けていたが、令和元(2019)年8月15日に惜しまれながら閉店した(山形新聞社, 2019; 米澤新聞社, 2019)。

米沢で一番の繁華街に位置していた中央広場は、また別の側面を有していた。図10から明らかなように、多くの人が中央広場を行き来しており、中央広場は南北を結ぶ重要な生活道路だったことが分かる。なお、米澤新聞社主催座談会「問われる街づくり」においては、中央広場が建設される以前のこの場所は、南北を結ぶ重要な生活道路であったことが指摘されている(米澤新聞社, 1996k)。

さらにまた、中央広場は米沢の中心街に人々を集客する役割も担っていた。その一例として、中央広場とサンホーユー(旧米沢ファミリーデパート)の跡地を中心に、米沢市産業まつりが開催されている。なお、第1回目の米沢市産業まつりは平成7(1995)年9月23日・24日、第2回目の米沢市産業まつりは平成8(1996)年9月28日・29日に開催された(米澤新聞社, 1995a, 1995b, 1996c, 1996f, 1996w)。

しかしながら、中央広場は市民から道路化の要望が高まり(米澤新聞社, 1996d, 1996e, 1996g, 1996h, 1996n, 1996o, 1996s, 1996u, 1996v)、最終的に中央広場はコミュニティー道路化されることが平成8(1996)年8月6日に決定した(米澤新聞社, 1996t)。したがって、図12に示すように、中央広場は現存していない。



図11 小貫幸太郎氏が撮影した「中央広場(昭和48(1973)年)」の風景写真の撮影ポイントと考えられる場所。この図は国土地理院の基盤地図情報に独自データ等を追加して作成したものである。



図12 「中央広場」が所在していたと考えられる場所の現在の様子、撮影日：2019年7月10日、撮影者：西川友子

3.5 立町辻北

図13に小貫幸太郎氏が撮影した昭和30年代の立町辻北の風景写真を示す。また、図13の撮影ポイントと考えられる場所を図14に示す。そして、図15に撮影ポイントと考えられる場所から撮影した現在の風景を示す。

図13と図15を比較すると、道路周辺の建物の多くが建て替えられており、風景に大きな変化がみられる。「米沢銀座」の看板も現在は撤去されている。

立町（たつまち）という町名は古くから存在している。奥羽編年史料卷之四十には「三月朔日米澤城市立町三戸消失ス」と記されており、次の行にも「六町市場 桐町 東町 柳町 立町 大町 南町」と記されている（伊佐早謙，1905，p. 9;「角川日本地名大辞典」編纂委員会編，1981，p. 481;長井政太郎監修，1990，p. 91）。加えて同資料には「八月六日八日米澤城市桐町立町ニ盗アリ」と記されている（伊佐，1905，p. 28;長井政太郎監修，1990，p. 91）。奥羽編年史料卷之四十は天正15（1587）年に起きた出来事が記されている。天正15（1587）年は伊達正宗が米沢を治めていた（米沢市史編さん委員会編，1999，p. 58）ことから、「立町」という町名は伊達氏時代から存在している地名であることが分かる。

立町は江戸期では町人町の一つで、米沢城下の北東部に位置していた（「角川日本地名大辞典」編纂委員会編，1981，p. 481）。江戸期の弘化3（1846）年に出版された米府鹿子には「町名 大町六丁 東町五

丁 南町五丁 柳町六丁 立町六丁 新町五丁」が記されており（日雄，1846，p. 31）、米府鹿子の写本にも同じく「町名 大町六丁 東町五丁 南町五丁 柳町六丁 龍町六丁 新町五丁」が記されている（御日帳方を勤めた米沢藩士，出版年記載なし，p. 4）。米府鹿子からみるに、「立町」は「龍町」とも書かれていたことが分かる。

立町は明治22（1889）年4月1日から昭和41（1966）年7月31日までは米沢市の町名であった（米沢市史編さん委員会編，1995，p. 262，1996，p. 587，1999，p. 254 および p.354；「角川日本地名大辞典」編纂委員会編，1981，p. 481）。

昭和41（1966）年8月1日に米沢市の住居表示を実施して街区制となった際、立町の一部が現在の米沢市中央1丁目、中央2丁目、大町5丁目の一部となった（米沢市史編さん委員会編，1996，p. 587，1999，p. 354；「角川日本地名大辞典」編纂委員会編，1981，p. 481）。そして、昭和42（1967）年に立町の一部が現在の米沢市中央3丁目、中央4丁目の一部となった（「角川日本地名大辞典」編纂委員会編，1981，p. 481）。



図13 小貫幸太郎氏が撮影した「立町辻北（昭和30年代）」の風景、所蔵者：米沢市（上杉博物館）



図14 小貫幸太郎氏が撮影した「立町辻北（昭和30年代）」の風景写真の撮影ポイントと考えられる場所。この図は国土地理院の基盤地図情報に独自データ等を追加して作成したものである。



図15 現在の「立町辻北」の風景、撮影日：2019年7月10日、撮影者：西川友子

3.6 米沢銀座

図16に小貫幸太郎氏が撮影した昭和30年代の米沢銀座の写真を示す。また、図16の撮影ポイントと考えられる場所を図17に示す。そして、図18に撮影ポイントと考えられる場所から撮影した現在の風景を示す。

図16と図18を比較すると、街並みに大きな変化がみられる。「米沢銀座」の看板も現在は撤去されている。



図16 小貫幸太郎氏が撮影した「米沢銀座（昭和30年代）」の風景、所蔵者：米沢市（上杉博物館）

立町にあった立町商店街の大通りは、かつては「米沢銀座」と呼ばれていた（中村良夫監修，2009，p. 122; 米沢市史編さん委員会編，1996，p. 487）。図16に示すように、昭和30年代は米沢銀座に多くの人が集まっていた。また当時、米沢は「自転車の町」と呼ばれていた（米沢市史編さん委員会編，1996，p. 487）こともあり、自転車に乗っている人も多く見られ、道端には沢山の自転車が駐輪されていることが分かる。

昭和38（1963）年の時点では米沢銀座を中核にして立町商店街および桐町商店街が米沢市内の主要商店街として存在していた。そのなかでも特に米沢銀座が人出の数で一番を保持していた（米沢市史編さん委員会編，1996，p. 487）。

昭和37年山形県統計年鑑における昭和38年10月1日現在の推計人口（山形県，1964，p. 14）によると、米沢市の人口は95,387人であった。なお、米沢市に隣接する高畠町の人口は29,450人、川西町の人口は26,624人であった。これら3市町の人口を合計すると151,461人となる。このような人口のなか、米沢商工会議所が実施した商店街の通行量調査（日曜日実施、歩行者・自転車の合計）に関して、昭和38（1963）年の時点では、ふじます前が14,567人、旧米沢郵便局前（現在は東京第一ホテル米沢）が12,049人、山形交通中央待合所が11,926人であった（米沢市史編さん委員会編，1996，p. 487）。ふじます、旧米沢郵便局そして山形交通中央待合所は立町十字路周辺に位置しており、通行量調査の結果から立町十字路周辺に人出が集中していたと言える。その次に通行量が多かったのは桐町商店街で10,138人、そして平和通り（旧米沢ショッピングセンター前・旧米沢ポポロ前）が7,150人であった（米沢市史編さん委員会編，1996，p.

487)。

昭和30年代の米沢は「自転車の町」と言われていたことから、昭和38（1963）年の時点においても自転車が多く、自動車はそれほど普及していないと考えられる。昭和37年山形県統計年鑑における昭和37年12月31日現在の自動車台数（市町村別）（山形県，1964，p. 171）によると、米沢市の乗用普通車は11台、乗用小型四輪車は253台、軽自動車は1,222台の合計1,486台であった。同様に、高島町の乗用普通車は2台、乗用小型四輪車は42台、軽自動車は319台の合計363台であった。川西町の乗用普通車は1台、乗用小型四輪車は26台、軽自動車は227台の合計254台であった。さらに、昭和38・39年山形県統計年鑑における昭和40年3月31日現在の自動車台数（市町村別）（山形県，1965，pp. 180-181）によると、米沢市の乗用普通車は16台、乗用小型車は897台、乗用軽四輪車は87台の合計1,000台であった。同様に、高島町の乗用普通車は1台、乗用小型車は145台、乗用軽四輪車は21台の合計167台であった。川西町の乗用普通車は0台、乗用小型車は79台、乗用軽四輪車は13台の合計92台であった。米沢市に隣接する高島町や川西町での乗用車保有車両数の状況から、日曜日に、米沢市に隣接する高島町や川西町から米沢市の米沢銀座まで自動車で購入物に出ている人は多くはないと予想される。



図17 小貫幸太郎氏が撮影した「米沢銀座（昭和30年代）」の風景写真の撮影ポイントと考えられる場所。この図は国土地理院の基盤地図情報に独自データ等を追加して作成したものである。



図18 「米沢銀座」が所在していたと考えられる場所の現在の様子、撮影日：2019年7月10日、撮影者：西川友子

昭和38（1963）年の米沢商工会議所実施の通行量調査が歩行者・自転車を対象にしていることから、カウントされた歩行者・自転車が米沢市民であったと仮定すると、日曜日に米沢市民の15.3%がふじます前を通行し、旧米沢郵便局前には米沢市民の12.6%、山形交通中央待合所には12.5%、桐町商店街には10.6%が通行していたことになる。そして平和通り（旧米沢ショッピングセンター前・旧米沢ポポロ前）には7.5%の市民が通行していたことになる。

さらに時が進み、昭和49年山形県統計年鑑における昭和49年10月1日現在の市町村別年齢別（5歳階級）人口（山形県，1976，pp. 14-15）によれば、米沢市の人口は92,498人であった。また、米沢市に隣接する高畠町の人口は26,965人、川西町の人口は22,577人であった。これら3市町の人口を合計すると142,040人である。このような人口のなか、昭和49（1974）年時点の米沢商工会議所実施の通行量調査（日曜日実施、歩行者・自転車の合計）では、立町十字路周辺の前がふじます前が2,840人、旧米沢郵便局前が6,814人、山形交通中央待合所が4,918人であった。また、桐町商店街は1,924人であった（米沢市史編さん委員会編，1996，p. 488）。

昭和40年代から自動車の普及に拍車がかかっており（一般財団法人自動車検査登録情報協会，2019；米沢市史編さん委員会編，1996，p. 487；総務省統計局，1996）、実際、山形県でも自動車の普及が目覚ましい。昭和40年山形県統計年鑑における昭和41年3月31日現在の自動車台数（市町村別）（山形県，1967，pp. 172-173）によると、米沢市の乗用普通車は22台、乗用小型車は1,153台、乗用軽四輪車は113台の合計1,288台であった。また、高畠町の乗用普通車は0台、乗用小型車は219台、乗用軽四輪車は21台の合計240台であった。そして、川西町の乗用普通車は0台、乗用小型車は129台、乗用軽四輪車は20台の合計

149台であった。それに対し、昭和48年山形県統計年鑑における昭和49年3月31日現在の自動車普及状況(市郡別普及台数)(山形県, 1975, pp. 186-187)によれば、米沢市の乗用普通車は44台、乗用小型車は8,866台、乗用軽四輪車は2,284台の合計11,194台であった。また東置賜郡の乗用普通車は4台、乗用小型車は5,604台、乗用軽四輪車は964台の合計6,572台であった。米沢市に隣接する高島町や川西町での乗用車保有車両数の状況から、高島町や川西町から米沢市まで自動車で購入物に出てきた人も存在していたと考えられる。

ところが自動車の普及に伴い、自動車の路上駐車問題が発生した。そのため、山形県公安委員会は昭和34(1959)年5月1日から立町十字路から桐町登起波牛肉店前の間を駐車禁止区域とした(米沢市史編さん委員会編, 1996, p. 546, 1999, p. 344)。さらに昭和39(1964)年5月10日からは、立町東陽堂前から門東町二八屋前十字路までの500m、立町十文字から屋代町十字路までの500m、柳町太陽堂書店十字路から桂町交番所までの915m、そして大町和田屋前十字路から元籠町精英堂文房具店までの310mが駐車禁止区域となった(米沢市史編纂委員会編, 1968, p. 379)。そのため、米沢市の米沢銀座や平和通りに自動車で購入物にきた場合は、自動車を駐車禁止区域外の駐車場に駐車する必要がある。高島町や川西町から米沢市の米沢銀座や平和通りなどの繁華街まで自動車で購入物に出てきた人も想定されるが、高島町民や川西町民も自動車を駐車場に駐車してから、米沢銀座や平和通りを歩行していただろう。

だがしかし、昭和49(1974)年の米沢商工会議所実施の通行量調査においても歩行者・自転車を対象にしていることから、カウントされた歩行者・自転車が米沢市民であったと仮定すると、日曜日に米沢市民の3.1%がふじます前を通行していたことになる。同様に、旧米沢郵便局前には米沢市民の7.4%、山形交通中央待合所には米沢市民の5.3%、桐町商店街には米沢市民の2.1%が通行していたことになる。

昭和49(1974)年時点でのふじます前・旧米沢郵便局前・山形交通中央待合所という米沢銀座の代表地点3点における昭和38(1963)年時点に対する増減率は、ふじます前が-80.5%、旧米沢郵便局前が-43.4%、山形交通中央待合所が-58.8%となっており、米沢銀座の歩行者が激減していることが明らかである。

米沢銀座の歩行者が激減した原因の一つとして、3.4節「中央広場」に挙げた昭和45(1970)年から昭和47(1972)年にかけて、大沼米沢店、中央広場を中心にして平和通りに面する米沢ショッピングセンターそして米沢ファミリーデパートの大型店舗が建設され、3つの大型店舗が集まる中央広場や平和通りに人々の波が移動したことが考えられる。

米沢商工会議所実施の平和通りにおける昭和49(1974)年時点の通行量(日曜日実施、歩行者・自転車の合計)は、米沢ショッピングセンター前が15,701人、大沼米沢店前が9,174人であった(米沢市史編さん委員会編, 1996, p. 488)。昭和49年10月1日現在の米沢市の人口は92,498人であったことから、通行量においてカウントされた歩行者・自転車が米沢市民であったと仮定すると、この当時、米沢市民の17.0%が米沢ショッピングセンター前を通行し、米沢市民の9.9%が大沼米沢店前を通行していたことになる。特に米沢ショッピングセンター前の通行量に注目すると、昭和38(1963)年時点に対する増減率は119.6%増加となっている。これらのことから、昭和40年代中盤以降人々が集まる場所が米沢銀座から平和通りに変化していることが明らかである。

なお、米沢市「住民基本台帳人口(令和元年12月1日現在)」(米沢市企画調整部総合政策課, 2019)によると、米沢市の人口は79,913人である。また、平成30年度米沢市通行量調査報告書(米沢市産業部商工課 & 米沢商工会議所, 2018)によると、東京第一ホテル米沢(旧米沢郵便局前)前の通行量(平成30年10月14日日曜日実施)は、歩行者が131人、自転車が261人で、歩行者・自転車の合計は392人であった。また、筆者らが図18の米沢銀座が所在していたと考えられる場所で撮影をしている際は、東京第一ホテル米沢前を歩く人の姿や自転車に乗る人の姿はなかった。

4 おわりに

米沢市出身の無名の写真家・小貫幸太郎氏に着目し、小貫幸太郎氏の経歴についての文献調査や取材などを行い、調査結果を纏めた。世の中にあまり知られていない米沢の写真家の経歴を本稿により紹介できたことは感慨深いものがある。

また、小貫幸太郎氏の作品6点を紹介しながら、作品6点の撮影ポイントにおける現在の風景を撮影し、撮影ポイントの変遷を確認した。また、撮影ポイントに関連する事柄についても調査を行い纏めた。小貫幸太郎氏が写した「なつかしい米沢の風景」とともに、撮影ポイントにおける変遷や歴史にも触れ確認することができた。

本稿が米沢出身の写真家・小貫幸太郎氏の存在と氏の作品が世に広まることの一助になれば幸甚である。

謝辞

今回の調査を行うにあたり、文献調査の際には山形県公立大学法人附属図書館司書の菅原莉央氏、木村朱里氏、三澤志帆氏には大変お世話になった。また、公益財団法人米沢上杉文化振興財団学芸主査の阿部哲人氏からは小貫幸太郎氏に関する取材を行った際に様々な情報を教えて頂き、それに加えて小貫幸太郎氏のフィルムや写真などの貴重な資料の熟覧の際にも大変お世話になった。ここに感謝の意を表す。本研究の一部は令和元年度米沢市学園都市推進協議会支援協力金によった。

参考文献

1. QGISプロジェクト. (2019). QGISフリーでオープンソースの地理情報システム. Retrieved from <https://qgis.org/ja/site/>, (accessed 2019-07-11).
2. 伊佐早謙. (1905). 奥羽編年史料 卷之四十 (写本). 写本 (著者原本の副本か), Retrieved from <http://www.library.yonezawa.yamagata.jp/dg/KE007.html>, (accessed 2019-07-03).
3. 一般財団法人自動車検査登録情報協会. (2019). 自動車保有台数 自動車保有台数の推移 (軽自動車を含む). Retrieved from <https://www.airia.or.jp/publish/statistics/ub83e100000000wo-att/hoyuudaisuusuihyou.pdf>, (accessed 2019-12-22).
4. 御日帳方を勤めた米沢藩士. (出版年記載なし). 米府鹿子. 写本, Retrieved from <http://www.library.yonezawa.yamagata.jp/dg/AB051.html>, (accessed 2019-07-03).
5. 「角川日本地名大辞典」編纂委員会編. (1981). 角川日本地名大辞典6 山形県. 角川書店.
6. 株式会社ニューメディア米沢センター. (2018). テクテクまっぷ「写真と共に歩む人生」小貫幸太郎 (2003年1月放送). Retrieved from https://www.youtube.com/watch?v=_Cr-HTHwasA, (accessed 2019-06-05).
7. 株式会社ONE COMPATH. (2019). 桂町通りの地図. Retrieved from <https://www.mapion.co.jp/m2/37.91156665,140.10170772,16/poi=L0361793>, (accessed 2019-07-11).
8. 公益財団法人米沢上杉文化振興財団. (2017). 「写真とペーパークラフトで感じる昭和の息吹」(チラシ). Retrieved from <http://www.denkoku-no-mori.yonezawa.yamagata.jp/pdf/top/zabun2017-mokuroku.pdf>, (accessed 2019-06-05).
9. 国土交通省国土政策局国土情報課. (2014). 国土数値情報ダウンロードサービス. Retrieved from <http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>, (accessed 2019-12-05).
10. 国土交通省国土地理院. (2019). 基盤地図情報サイト. Retrieved from <http://www.gsi.go.jp/kiban/>, (accessed 2019-07-11).
11. 阪野吉平. (2015). 徴兵体験 百人百話. 17出版.
12. サンユウ企画米沢百科事典発行委員会編集. (1982). 米沢百科事典. サンユウ企画.
13. 市立米沢図書館. (2016). 愛称が決定しました. Retrieved from <http://www.library.yonezawa.yamagata>.

- jp/naseba/oshirase/%E6%84%9B%E7%A7%B0%E3%81%8C%E6%B1%BA%E5%AE%9A%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%97%E3%81%9F/, (accessed 2019-12-17).
14. 市立米沢図書館. (2017). 米沢図書館の歴史. Retrieved from http://www.library.yonezawa.yamagata.jp/wordpress/wp-content/uploads/2017/07/library_history.pdf, (accessed 2019-12-10).
 15. 総務省統計局. (1996). 日本の長期統計系列 第12章運輸 12-10 車種別保有自動車数 (昭和11年度～平成16年度). Retrieved from <https://www.stat.go.jp/data/chouki/12.html>, (accessed 2019-12-22).
 16. 総務省統計局. (2019). 政府統計の総合窓口 (e-stat) 地図で見る統計 (統計GIS). Retrieved from <https://www.e-stat.go.jp/gis>, (accessed 2019-07-11).
 17. 独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所. (2014). 桜井祐一. Retrieved from <https://www.tobunken.go.jp/materials/bukko/9945.html>, (accessed 2019-12-10).
 18. 中村良夫監修. (2009). やまがたの街づくり: 財団法人山形県都市整備協会記念誌. 財団法人山形県都市整備協会.
 19. 長井政太郎監修. (1990). 日本歴史地名大系第6巻 山形県の地名. 平凡社.
 20. 日雄. (1846). 米府鹿子5巻. 光彰山清玄写, Retrieved from <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2562336?tocOpened=1>, (accessed 2019-12-18).
 21. 山形県. (1964). 昭和37年山形県統計年鑑. 山形県企画部統計課.
 22. 山形県. (1965). 昭和38・39年山形県統計年鑑. 山形県企画部統計課.
 23. 山形県. (1967). 昭和40年山形県統計年鑑. 山形県企画部統計課.
 24. 山形県. (1975). 昭和48年山形県統計年鑑. 山形県企画部統計課.
 25. 山形県. (1976). 昭和49年山形県統計年鑑. 山形県企画部統計課.
 26. 山形県. (2019). 山形県観光情報ポータル やまがたへの旅 2019年松が岬公園 (上杉神社) 桜情報. Retrieved from <http://yamagatakanko.com/log/?l=231953>, (accessed 2019-12-11).
 27. 山形新聞社. (2017). ペーパークラフトと写真で感じる「昭和」. 『山形新聞』, 2017年5月26日, 朝刊, p.16.
 28. 山形新聞社. (2019). 愛され49年惜しまれながら 大沼米沢店が閉店. 『山形新聞』, 2019年8月16日, 朝刊, p.11.
 29. 山形新聞社「写真集・やまがた100年」刊行委員会編. (1988). 写真集 やまがた100年. 山形新聞社.
 30. 米沢興譲館同窓会. (2017). ペーパークラフトと写真で感じる「昭和」・米沢・中村隆行さん (S50卒) (2017年5月26日山形新聞より). Retrieved from <https://yonezawakojokan.jp/event/news/20170526.html>, (accessed 2019-06-05).
 31. 米沢市企画調整部総合政策課. (2019). 米沢市の人口【住民基本台帳人口と世帯数】. 米沢市. Retrieved from <http://www.city.yonezawa.yamagata.jp/secure/3740/R1tikubetujinkousetai.pdf>, (accessed 2019-12-27).
 32. 米沢市産業部商工課, 米沢商工会議所. (2018). 平成30年度米沢市通行量調査報告書. Retrieved from http://www.city.yonezawa.yamagata.jp/secure/2834/H30_houkokusyo.pdf, (accessed 2019-12-18).
 33. 米沢市史編さん委員会編. (1995). 米沢市史 第四巻 近代編. 米沢市.
 34. 米沢市史編さん委員会編. (1996). 米沢市史 第五巻 現代編. 米沢市.
 35. 米沢市史編さん委員会編. (1999). 米沢市史 大年表・索引. 米沢市.
 36. 米沢市史編纂委員会編. (1968). 続米沢市史. 米沢市.
 37. 米沢市制百周年記念事業実行委員会編. (1989). 市制100周年記念誌 米沢百年. 米沢市制百周年記念事業実行委員会.
 38. 米沢商工会議所, 米沢市企画調整部まちづくり推進課・産業部商工観光課, 社団法人米沢観光物産協会. (2006). 米沢観光文化検定テキストブック「よねざわまるごと辞典」(第2版). 米沢商工会議所.

39. 米澤新聞社. (1995a). 30年代の街並みも 産業まつり開幕. 『米澤新聞』, 1995年9月24日, 朝刊, p. 1.
40. 米澤新聞社. (1995b). 同時開催で回遊性高め. 『米澤新聞』, 1995年9月3日, 朝刊, p. 1.
41. 米澤新聞社. (1996a). 7日から解体開始 旧サンホーユービル. 『米澤新聞』, 1996年5月1日, 朝刊, p. 1.
42. 米澤新聞社. (1996b). あす覚書締結へ. 『米澤新聞』, 1996年2月29日, 朝刊, p. 1.
43. 米澤新聞社. (1996c). この"にぎわい". 『米澤新聞』, 1996年9月30日, 朝刊, p. 1.
44. 米澤新聞社. (1996d). コミュニティー道路案 中心核商店街協に報告. 『米澤新聞』, 1996年8月10日, 朝刊, p. 1.
45. 米澤新聞社. (1996e). 中央公園道路化を. 『米澤新聞』, 1996年3月2日, 朝刊, p. 1.
46. 米澤新聞社. (1996f). 今年も同時開催. 『米澤新聞』, 1996年9月11日, 朝刊, p. 1.
47. 米澤新聞社. (1996g). 市、最終方針へ. 『米澤新聞』, 1996年8月3日, 朝刊, p. 1.
48. 米澤新聞社. (1996h). 市民が目にした米沢議会「道路化」請願、その時 議員の意思表示. 『米澤新聞』, 1996年6月21日, 朝刊, p. 1.
49. 米澤新聞社. (1996i). 市議会の議決含め. 『米澤新聞』, 1996年3月2日, 朝刊, p. 1.
50. 米澤新聞社. (1996j). 急ぐ広場検討. 『米澤新聞』, 1996年1月15日, 朝刊, p. 1.
51. 米澤新聞社. (1996k). 本社主催座談会 問われる街づくり (上) 魅力ある米沢の中心街再生. 『米澤新聞』, 1996年10月1日, 朝刊, p. 1.
52. 米澤新聞社. (1996l). 正式に売買契約. 『米澤新聞』, 1996年7月30日, 朝刊, p. 1.
53. 米澤新聞社. (1996m). 解体工事が本格化. 『米澤新聞』, 1996年5月8日, 朝刊, p. 1.
54. 米澤新聞社. (1996n). 調整案で地元と. 『米澤新聞』, 1996年7月24日, 朝刊, p. 1.
55. 米澤新聞社. (1996o). 請願、署名を提出. 『米澤新聞』, 1996年6月1日, 朝刊, p. 1.
56. 米澤新聞社. (1996p). 責任問題に言及. 『米澤新聞』, 1996年8月13日, 朝刊, p. 1.
57. 米澤新聞社. (1996q). 跡地問題ただす. 『米澤新聞』, 1996年8月22日, 朝刊, p. 1.
58. 米澤新聞社. (1996r). 跡地引き渡し完了. 『米澤新聞』, 1996年9月21日, 朝刊, p. 3.
59. 米澤新聞社. (1996s). 跡地買収に揺れ最終日. 『米澤新聞』, 1996年3月25日, 朝刊, p. 1.
60. 米澤新聞社. (1996t). 遅れる引き渡し跡地. 『米澤新聞』, 1996年8月7日, 朝刊, p. 1.
61. 米澤新聞社. (1996u). 「道路化」要望で一致. 『米澤新聞』, 1996年5月19日, 朝刊, p. 1.
62. 米澤新聞社. (1996v). 道路化請願採択. 『米澤新聞』, 1996年6月20日, 朝刊, p. 1.
63. 米澤新聞社. (1996w). 門前市に伝統の味. 『米澤新聞』, 1996年9月29日, 朝刊, p. 1.
64. 米澤新聞社. (2001a). あす、オープン. 『米澤新聞』, 2001年9月28日, 朝刊, p. 1.
65. 米澤新聞社. (2001b). 置賜文化ホール・米沢市上杉博物館 伝国の杜 9/29本日OPEN. 『米澤新聞』, 2001年9月29日, 朝刊, p. 3.
66. 米澤新聞社. (2001c). 高円宮さまお迎えし記念式. 『米澤新聞』, 2001年9月29日, 朝刊, p. 1.
67. 米澤新聞社. (2003). 戦争聞き歩き 百人百話 -18-. 『米澤新聞』, 2003年1月21日, 朝刊, p. 3.
68. 米澤新聞社. (2013). 米沢発展の礎にしたい=市長. 『米澤新聞』, 2013年10月5日, 朝刊, p. 1.
69. 米澤新聞社. (2016a). 中心部に賑わい取り戻す起爆剤に. 『米澤新聞』, 2016年7月2日, 朝刊, p. 1.
70. 米澤新聞社. (2016b). 愛称は「ナセBA」. 『米澤新聞』, 2016年6月1日, 朝刊, p. 1.
71. 米澤新聞社. (2018). 商業ビル「ポポロ館」解体へ. 『米澤新聞』, 2018年4月4日, 朝刊, p. 1.
72. 米澤新聞社. (2019). 置賜の顔・賑わいの象徴 大沼米沢店 惜しまれつつ閉店. 『米澤新聞』, 2019年8月16日, 朝刊, p. 1.
73. 渡部恵吉. (1986). 104 ふるさとの思い出 写真集 明治 大正 昭和 米沢. 図書刊行会.

